

授業科目名	子どもの健康と安全		担当教員名	米澤 慶子 美越 芳枝
必修/選択	必修(保育士資格)	開講学年・学期	2年 後期(年間開講数 2講座)	
科目区分	保育に関する科目	単位数	1単位	
施行規則に定める科目区分等	保育の対象の理解に関する科目(別表1)	授業方法/担当形態	演習 / オムニバス	
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 看護師としての実務経験を活かして、実例を多く取り上げて授業を行っている。/保育所所長、保育士として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。	
授業の到達目標	<p>子どもの保健に関わる個別対応と集団全体の健康安全管理、事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。また子どもの健康安全管理と適切な対処方法や、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解し、実践ができるようにする。</p> <p>(1)保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 (2)関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 (3)子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 (4)関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 (5)保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 (6)子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</p> <p>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等</p>			
授業の概要	この授業では、子どもの健康を守るための安全対策について理解し、保育環境の衛生管理や傷害などの予防、対策について理解する。母子保健・地域保健について学ぶ。			
テキスト	「子どもの保健～健康と安全～第2版」大澤真木子(日本小児医学出版社,2018)			
参考書・参考資料等	奈良間 美保ほか(2015)『系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論』第13版 医学書院			
成績評価の方法	授業態度等の平常点10点、試験90点の総合評価			
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	子どもの健康と保育の環境について理解する(担当:米澤)			(1)
第2回	子どもの保健に関わる個別対応と集団全体の健康安全管理について理解する(担当:米澤)			(2)
第3回	子どもの体調不良や傷害が発生した場合の応急処置について理解し、実践ができるようにする(担当:米澤)			(3)
第4回	子どもの体調不良や傷害が発生した場合の救急処置や救急蘇生法について理解する(担当:米澤)			(3)
第5回	感染症の集団発生についての予防および対応策について理解する(担当:米澤)			(4)
第6回	感染症発生時の授業について理解する(担当:米澤)			(4)
第7回	3歳児未満の保育における保健的対応について理解する(担当:米澤)			(5)
第8回	個別的配慮を必要とする子どもへの対応について理解する(担当:米澤)			(5)
第9回	子どもの心の健康とその課題について理解する(担当:米澤)			(6)
第10回	障害のある子どもへの対応について理解する(担当:米澤)			(5)
第11回	母子保健・地域保健と保育について理解する(担当:米澤)			(6)
第12回	安全管理と安全教育について学ぶ①(担当:美越) 1.安全管理の必要性			(1)
第13回	安全管理と安全教育について学ぶ②(担当:美越) 2.安全教育の実際			(1)
第14回	健康を守るガイドラインや保健計画を学ぶ①(担当:美越) 1.幼児期運動指針と動きの獲得 2.保健計画			(2)

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第15回	健康を守るガイドラインや保健計画を学ぼう②(担当:美越) 3.感染症ガイドラインと保育者の等の確認 4.食育基本法と食育	(1)
定期試験	筆記試験	